

## 必要な十回以上の反復

最近、“過保護”の弊害が強調されて、この面における反省が高まっているのは大層結構なことですが、その反動として、適当な保護や教育までが何かいけないことでもあるかのように考える親が目につくようになり、私は今それを心配しています。

というわけは、親の保護や教育は子供にとって絶対に必要なものだからです。人間の子供は他の動物と異なり、親の保護がなかったら生きて行くことさえ出来ず、また、親の教育がなかったら人間らしい人間には絶対になれないからです。

人間以外の動物は、頭脳が完成された状態で生まれて来るので、親の保護や教育がなくても立派に生きていけますが、その代り少しも進歩というものがありません。

ところが、人間の子供は頭脳が未完成の状態では生まれて来るものですから、教えてやらない限り、どんなにやさしいことでも知るはずがなく、また出来るはずがないのです。その代り、教えてやればそれを受け入れてどんどん能力を伸ばすことが出来るのです。

だから、人間だけが教育を必要とするわけですが、ぜひわが子に理解させ実行させたいと思うことは、そのことについて少なくとも十回

以上言って聞かせる必要がある、ということを親たる者は知っていなければなりません。

なぜかと言いますと、耳で聞いたことは、その時はよくわかって頭の中に皆収まったように思っても、三日後にテストしてみますと、90%は忘れてしまっていて、僅か10%しか頭に残っていない、という実験調査があるからです。

だから、二回や三回くり返して教えてやったくらいで、子供が必ず記憶できるだろうと考えたら、とんでもないことと言わなければなりません。ところが、一回か二回教えてやったくらいで、子供がわからなかったり出来なかったりしますと、子供を責める親が多くいます。

これでは子供はただ面くらうだけです。少しも良くなるわけがありません。それどころか、そのような親に対しては反感を持つに違いありません。反感を持ったら、どんなに受け入れやすい事でも素直に受け入れられるものではありません。

だから、こういう親の行為は、わが子を良い子にしたいという気持から出たとしても、事実は逆に子供を悪くする行為であって、親としてぜひとも反省し、改めていただきたいものです。

例えば、家の中で子供が騒いでいますと、いきなり叱りつける親がよくいます。子供は何で叱られたかわかりません。ここは叱るべき所

ではなくて、優しく静かに教えてやるべき所です。そうすればよくわかり、気持よく受け入れられて、親の希望する子供に一步近づくことが出来ます。こういう親が、前項で述べました“慕われる親”というものです。

### 親に求められる強い自制心

さて、親として子供に、何よりもまず必ず教えてやらなければならない、と私が思っていることがあります。それは“自制心”です。なぜかと言いますと、人間だけが自己を制御する必要があるように生まれついているからです。自己制御の出来ない人間は、ブレーキのきかない車と同じで、破滅する他はありません。

「猿に酒を飲ませる」という実験があります。酒の味を知った猿は、毎日、与えられた酒を喜んで飲みますが、必ず適量で切り上げ、決して深酒することはありません。だから、猿は毎日酒を飲んでもアル中には決してならない、ということです。

では猿は人間より賢いのか、と言いますと、勿論そうではありません。猿の頭の中にはサーモスタットのような働きがあって、それが食欲を自動制御しているのであって、人間のように自己制御しているの

ではありません。

それは、例えばバカチョンカメラで写真を撮るのと同じです。カメラの電子頭脳が、明暗や距離を自動的に測定し調節して撮影するのに似ています。便利と言えば便利ですが、その代り可もなく不可もないという写真しか出来ません。

人間の頭脳は、プロの写真家が使う超高級カメラと同じで、操作をすべて自分の判断でしなければなりません。それは困難で努力のいることですが、その代り、自動制御ではとても及ばない立派な調整が出来、成功の喜びは一段と大きいものがあるわけです。

このことは、操作をすべて自分の判断で立派に出来るだけの能力を身につけない限り、プロの超高級カメラもバカチョンカメラに劣るし、人間も猿に劣る、ということの意味しています。

だから、人間は教育を必要としている唯一の動物であり、とりわけ自己制御の能力を身につける必要があるわけです。子の教育を怠れば、わが子が親である自分を殺すような事をしたとしても、それは不思議ではなく、また決して子供を責める事も出来ません。